

## 第2回三重県総合交通ビジョン策定懇話会 議事要旨

- 日 時：平成25年12月12日（木）13時30分～15時30分
- 場 所：アストプラザ 会議室1 （津市羽所町700番地アスト津4階）
- 出席者：（委員）池田委員、谷口委員、西脇委員、野村委員、松本委員（座長）  
水谷委員（50音順）  
（事務局）三重県地域連携部交通政策課

### ■情報提供、情報発信について

- 興味のない人にどのように興味を持ってもらうか、意見を集めていくのかが非常に重要であるので、意見聴取や情報提供の手法、手段について検討してもらいたい。
- 県としての交通ビジョンを描くときに公共交通の役割や、車との使い分けについて、どのように県民に認識してもらうかを記述すべきである。県の役割として情報を発信していく姿勢を総合交通ビジョンの中では明記すべき。

### ■健康の視点の追加

- 健康は個人の問題でもあるが、医療費など社会問題になってきていることから国や県の問題でもあり、健康の視点も追加すべきである。
- 自転車の検討を行うにあたっては、自転車通勤の健康への影響について自転車の専門家に聞いてみるのもいいのではないかな。

### ■意識啓発について

- 安全、災害に強い交通においては、防災に対する意識啓発や県民に対して協力していただくことを追加してはどうか。
- 県民へのアピールとして、今クルマに乗っている人も公共交通に乗らないと、地域公共交通が維持できない、一人一人の行動が未来につながることを明記すべきである。
- 住民への意識啓発は、表現はできるだけポジティブになるよう十分に留意する必要がある。
- ゲームの手法を取り入れて、子どもたちを中心に楽しみながら知ってもらうという方法も有効である。

### ■基本理念とめざす姿の関係について

- 右肩下がりの時代においては問題対処型ではなく理念実現型の計画が求められる。その場合、基本理念が先にあった上でめざす姿を提示し、課題を設定することになる。

### ■経済活動を支える交通と生活を支える交通の関係について

- 経済活動を支える交通と生活を支える交通は相互にクロスオーバーするものであり、その上でスパイラルアップする関係にあるので、基本方針の中でも相互補完するイメージを持たせて欲しい。

### ■将来ビジョンで示す目標像について

- 単に将来計画を20年後だけで見据えるだけでなく、その先の40年後、60年後の状況も想定した上で20年後を想定した目標像を示すべきである。
- 人口減少という問題を一般市民の感覚として共有していく必要がある。その上で、県はどのような姿をめざしていくのかを示す必要がある。

### ■地域交通の維持と役割分担について

- NPO含む地域が主体となっているバス運営は、現状の補助では経営上限界がある。今後の役割分担を踏まえ行政としても支援の底上げを考えてもらいたい。
- 人々の移動を支えるための路線の意義をそれぞれ明確にし、その上で地域交通の運営に対して支援する、しないを決める必要がある。
- 地域公共交通への補助、維持、支援のあり方を踏まえ、地域のコンパクト化や交通資源の選択と集中を示していくかどうか検討する必要がある。

### ■運転手の確保について

- 国土交通省でもバス運転手の確保のための委員会が行われることになった。県レベルでも運転手の確保についての支援を検討してもらいたい。

### ■交通利用者の生きがいや幸せを実感できる生活に着目した視点について

- のびのび明るく生活する高齢者の姿を描けるための交通のあり方や、子育てを行う人のための交通のあり方、外国人が使いやすい交通のあり方なども検討する必要がある。

### ■ネットワークについて

- 災害時等の海側と山側を支える交通ネットワークや、県内の幹線以外の市町をつなぐ幹線的な役割を持ったネットワークに対する考え方を示すべきである。